

ま と め

聖マリアンナ医科大学 医学部長

たどころ まもる
田所 衛

この度の雑誌編集委員会が企画した特集「医学教育：卒前・卒後教育の現状と課題」については、現在本学の卒前と卒後の医学教育の実態と問題点を知る上で、本学に関係ある者はもとより、全国の各医科大学の関係者にもご理解を戴く意味において重要なテーマであると考えます。医学教育の改革が叫ばれて、本学が本格的にその問題に取り組んだのは平成13年村山学長の時からであった。それまで本大学は、卒前、卒後の教育の問題を平成5年より長谷川学長の下で「教育活動について」という項目の自己点検・評価を行い、平成7年にその報告を行ってきた。その自己点検・評価の報告で多くの問題点が指摘され、医学教育の改善が本学で急がれた経過がある。コア・カリキュラムや共用試験の導入など具体的なカリキュラムの改定がなされ、平成14年4月に入学した学生より適用された。それ以降は学年進行で進められ、奇しくも本年度の修了をもって卒業する学生が、この新しく改定されたカリキュラムのもとで教育されてきた最初の者達となる。この学生達は、新しいカリキュラムで6年間に亘り経験してきたパイオニア達であるが、大学としては、どのように医学教育を受け止め身に付けてきたか極めて緊張してその姿を見守っている。このような時期に呼応するように雑誌編集委員会の企画で増刊号に医学教育の現状と問題点を掲載する運びになったことは、誠に考え深いものがあるといえる。

本学の多数の教育担当責任者から卒前・卒後の医学教育更に看護教育の現状を詳細に述べてもらい、その分析結果から将来における改善すべき点を指摘してもらえたことは、今後の医学教育の改善と発展のために本学にとって極めて有意義な特集となるものと確信している。

平成13年に出された医学・歯学教育のあり方に関する調査研究協力者会議の報告の「21世紀における医学・歯学教育の改善方策について」の中で述べられていた(今後の医学・歯学教育の目指すべき目標)の以下の8項目:

- 1 患者中心の医療を実践できる医療人の育成
- 2 コミュニケーション能力の優れた医療人の育成
- 3 倫理的問題を真摯に受け止め、適切に対処できる人材の育成
- 4 幅広く質の高い臨床能力を身につけた医療人の育成
- 5 問題発見・解決型の人材の育成
- 6 生涯にわたって学ぶ習慣を身につけ、根拠に立脚した医療を実践できる医療人の育成
- 7 世界をリードする生命科学研究者となりうる人材の育成
- 8 個人と地域・国際社会の健康の増進と疾病の予防・根絶に寄与し、国際的な活動が出来る人材の育成

を改めて検討してみるに、この特集に記載された各々の文面から本大学が全ての項目に対して十分に達成しているとの回答が出来るとまではいえないが、かなりこれらの目標に近付いて来ている事が伺われる。これを機会に全学が気持ちを一つにして医学教育の発展のために更に努力を重ねていきたいと思う。